

舞台芸術ギフト化計画からの提案

舞台芸術は限られた人だけの特別な趣味ではなく、
日々の生活の中にある選択肢の一つです。

新しい観客がいることが、
作品の裾野や表現の可能性を広げていきます。

観客の皆さん自身が、
舞台芸術を好きになってくれそうな
家族や友人を劇場に連れていける。
そんな環境をつくり手と一緒に考えてみませんか。

ギフトチケットは、先に必要な枚数だけ購入してプレゼントし、贈られた相手があとから日時指定できる券種です。相手の趣味・嗜好をよく知る家族・友人に贈ることで、舞台芸術に関心のなかった人に足を運んでもらうことを目指しています。実際に使われる機会は少なくとも、存在することで観客の方の目にとまり、舞台芸術を贈る/誘うという概念が広まっていくことを願っています。



ギフトチケット用のロゴは、個人、法人、商用、非商用を問わず無料でご利用いただけます。QRコードからデータをダウンロードしてお使いください。
※著作権は放棄しておりませんので、商標・意匠としてのご利用はできません。



制作：「舞台芸術ギフト化計画」ワーキンググループ一萩野達也、奥田安奈、熊谷由子、斎藤 努、高崎大志、西尾祥子 (50音順)

——「舞台芸術ギフト化計画」は票券管理を切り口に、観客を広げる仕組みを提案します——

企画：fringe <http://fringe.jp/gift/> 助成：公益財団法人セゾン文化財団

2021年3月発行

舞台芸術をプレゼントできる
ギフトチケットがあったら
いいと思いませんか。

観客のみなさまへ



🎁 舞台芸術にハマるかどうかは最初の一本で決まる

自分に合ったものとハズレなしで出会う——表現の振幅が大きい舞台芸術でこれがどんなに大変なことかは、観客の方なら痛感していると思います。だからこそ、刺さる作品と出会ったときの喜びは、何物にも代え難いのではないのでしょうか。舞台芸術ファンとは、こうした体験を積み重ねることができた幸運な人たちののです。劇場に足を運ぶ人を増やすためには、最初の成功体験が非常に重要だと私たちは考えました。趣味・嗜好をよく知る家族・友人に対し、この作品なら気に入ってもらえと思ったときに、気軽に舞台芸術を贈る/誘うことができればと思います。

🎁 評判のよい作品ほど観ることができない舞台芸術

演芸・演劇・舞踊鑑賞を年1回以上した15歳以上の人は14.6%という調査結果があります*1。多くの人にとって、舞台芸術はまだ遠い存在です。たとえ作品の評判を耳にして観たいと思っても、舞台芸術の場合はすでにチケットが入手困難なことがほとんどです。時間や場所の制約を受けずに鑑賞できるメディア芸術(映画・出版等)とは、ここが決定的に違います。舞台芸術の醍醐味である「劇場で同じ時空を体感すること」を、より多くの人に知ってもらいたい。そのためには、初めての人が興味を持てる作品に、気軽にアクセスできる仕組みを用意することが不可欠だと思います。

*1 平成28年社会生活基本調査結果(総務省統計局)



🎁 枚数だけ購入し、あとから日時指定できるチケットを

舞台芸術を贈る/誘うときの大きなハードルは、早くから日時指定の前売券を購入することです。舞台芸術ファンなら、決められた日時まで過ごすことも楽しみの一つですが、初めての人を誘うならできるだけ都合を合わせてあげたい。だったら枚数だけ先に購入し、公演が近づいてから日時指定できるチケットがあればいいのでは。前売券とは別にギフトチケットという券種をつくるのです。あとから日時指定しても、見やすい座席が確保されていれば、安心して贈る/誘うことができるのではないのでしょうか。

🎁 ギフトチケットを導入するのはとても簡単

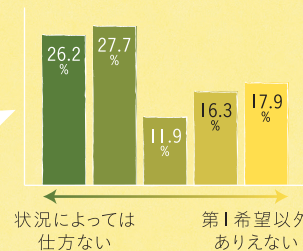
ギフトチケットの制度設計について、アンケートを実施しました*2。

遅くとも3日前までの日時指定で、第1希望が取れなくても許容できる人が過半数です。招待券と同じ考え方なので、これなら公演規模を問わず導入できるのではないかと思います。

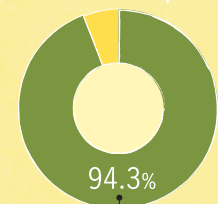
希望する特典では、「有料パンフレット・記念グッズ等の提供 52.8%」に次いで、「購入後キャンセル料を払うことでキャンセル可能 47.9%」が2位でした(複数回答可)。キャンセルの仕組みが実現すれば、交通機関のチケットのように、さらに身近な存在になるかも。

*2 2020年11月1日～12月15日にオンラインで実施(有効回答386件)

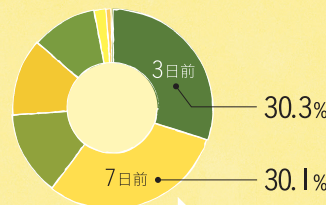
Q. 第1希望の日時指定が取れない場合、どれくらい許容できますか？



Q. 日時指定をあとからするチケットがあったら、使ってみたいですか？



趣味・嗜好を理解している家族・友人へのプレゼントに使ってみたい



Q. 日時指定の締切はいつまでならいいと思いますか？

🎁 舞台芸術はもっとチケットの券種があってもいい

アンケートでは、見え方が異なるのに券種が細分化されていない舞台芸術のチケットに対し、観客の方から不満の声がありました。良席へのこだわりは作り手の想像を超えるものでした。舞台芸術もプロスポーツのように、見え方やサービスによって多様なチケットがあるべきではないでしょうか。その一つとしてギフトチケットという券種も存在できると思います。主催者を動かすことができるのは、観客の方の声です。作品の内容だけでなく、券種についてもぜひ主催者にご意見をお寄せください。舞台芸術のチケットは変えられると思います。

🎁 新しい観客がいることで舞台芸術は成長していく

ギフトチケットは一つの手段です。舞台芸術を継続させるためになにができるのか、観客の皆さんも一緒に考えてみてください。なぜ、自分ごとにしないといけないのか。それは、舞台芸術が観客の方がいて初めて成立する表現だからです。チケットが取りづらくなることやマナーを心配する方もいるでしょう。けれど、新しい観客がいないと、やがて舞台芸術は衰退していきます。誰もが最初は初心者です。使われる機会は限られていても、存在することで舞台芸術を贈る/誘うという概念が広まることを願っています。

🎁 昨日までできなかったことが明日からできる世界

いままで贈れなかったものが贈れるようになることで、新しい世界が広がります。他の業界でも、そうして世界を広げてきました。相手の人生を変えるような作品を、あなたが紹介できるかも知れません。舞台芸術に同じステージは二度とありません。この体験をもっとシェアできると思います。ギフトチケットはその最初の一歩です。